

ひとりひとりが“ふれあい”

毎年実施しているリーダー研修会、第23回目を迎える女性委員会主催代表者研修会は、身近なクラブや地区高連の活動事例に学び、運営や組織体制、るクラブや地区高連に共通することは、会員全員が楽しんで活動に参加しているということである。会長や一部の役員が引っ張っていくのではなく若手の

東前梅の会誕生と現在

稲荷第一地区高齢者クラブ連合会
会長 小高 忠良



1 稲荷第一地区高齢者クラブ連合会 東前梅の会について

稲荷第一地区高連には以前は島田地区・大串地区・東前地区の3つのクラブがあったが現在は1つのクラブしかない。

「東前梅の会」は、東前地区の女性の方々が、親睦やボランティアを通し、“文化交流の場を持ちたい”と立ち上げ、平成14年6月1日に設立した。当時の会員は56名、今年で15年目を迎える。

2 組織

①役員 顧問3名、地区高連会長1名、単位クラブ会長1名、副会長2名、会計2名、女性委員1名、事務局長1名、事務局1名、監査2名

②委員会・部会 スポーツ委員2名、旅行委員1名、親睦部長1名、親睦副部長1名、芸能部長1名、記録部長1名、グラウンドゴルフ部長1名、輪投げ部長1名、サロン部長1名、サロン副部長1名、監事7名

7班に分け、各班長が監事として取りまとめている。会員への連絡は、毎月第1週に連絡会を開催し、前月の事業報告と当月の事業について話し合い、各会員へ配布している。高齢や体の都合で行事に参加できない会員については、各班長が自分の地域の状況を確認・把握するようにしている。

3 地区高連・単位クラブ運営で特に力を入れている点

①子どもとの交流(対象:幼稚園、保育園児童)
グラウンドゴルフ、昔遊び

②60歳代の若い新会員の加入

班内及び知人への声かけを会員全員で行っている。

③グラウンドゴルフを通して健康増進・ストレス解消

④サロン お茶会、健康体操

⑤連絡の徹底

連絡会議の資料を会員全員に配布している。

4 活動の成果

連絡会議及び役員会で決まった事は全員が協力し、参加している。

会員全体に連絡が行き届いている。

5 今後の課題

行事が10月以降に集中してしまうため、調整していく。



平成4年 (1992年)	3月	常澄村と合併
平成5年 (1993年)	11月	創立30周年記念大会兼第17回高齢者クラブ大会
平成8年 (1996年)	10月	第5代会長 櫻井秋雄氏
平成9年 (1997年)	9月	婦人活動推進委員会を女性委員会と名称変更
平成14年 (2002年)	5月	第8代会長 井坂 耕氏 初の女性副会長誕生
平成15年 (2003年)	5月	第9代会長 山川 庫氏
平成17年 (2005年)	2月	内原町と合併 市高連総会 クラブ数172、会員数1万人
平成18年 (2006年)	5月	市高連定期総会 単位クラブ数170クラブ、会員数約9,000人 ・クラブ活性化対策の一つとしてプロック別活動を強化
平成19年 (2007年)	11月	第20回全国健康福祉祭(ねんりんピックいばらき大会)開催
平成20年 (2008年)	11月	第37回全国老人クラブ大会で「優良市高連」として表彰される
平成21年 (2009年)	1月	市高連役員研修会(ホテルレイクビュー水戸) 初めての地区連合会長研修会を開催(テーマ:会員の増加対策と地区内クラブの連携)
平成22年 (2010年)	3月	東日本大震災発生(11日、午後2時46分、水戸市震度6弱)
平成23年 (2011年)	4月	東日本大震災における会員の被災状況調査 家屋損壊 全壊10世帯、半壊18世帯、一部損壊 1657世帯、 ケガ 軽傷4名 創立50周年記念誌編集委員会設置 記念誌作成準備にとりかかる。
平成24年 (2012年)	6月	広報紙「高壮だより水戸」タブロイド版として発行 50周年記念誌構成 第1部／あゆみ 第2部／特集「戦争・東日本大震災の体験・記憶を語り継ぐ」 第3部／支え合う地域づくりを目指して(座談会)とし、役員・会員一丸となつて原稿募集に励む
平成25年 (2013年)	1月	創立50周年記念式典実行委員会設置 創立50周年記念式典挙行 県民文化センター大ホール
平成26年 (2014年)	2月	創立50周年記念誌発行 第10代会長 清水昭郎氏 関係機関へ寄贈
平成27年 (2015年)	9月	全国老人クラブ「100万人会員増強運動」5か年計画を受け「地域づくり推進委員会」設置 全老連より「100万人会員増強運動特別賞」受賞
平成28年 (2016年)	9月	第40回世界オセロ大会が水戸市で開催 水戸市長杯高齢者クラブオセロ大会開催

私たちは水戸市高齢者クラブ連合会の活動を応援しています

--	--	--	--